

RQ被災地女性支援センター(RQW)



2月17日、歌津で「小さな手芸フリーマーケット」を開催しました。アクリルタワシになくはならない毛糸や編み針がやはり大人気。古い竹の編み針が「編みやすい」と評判でした。「ニットカフェ」も同時開催され、小さい子からおばあちゃんまで、教えあいっこしながら楽しく熱心に編んでいました。



登米市の華足寺での節分会。今年厄年を迎える年男たちが祓をまとい、まいているのは……

殻付き落花生!

殻に数字や、暗号が書いてある『アタリ』を見つけると、縁起物などの景品がもらえるのだそうです。「布袋様」は来年の節分まで家に飾ってから、寺にお返しします。



聞き書きチーム MEMOKKO



RQWは2月21日に、後継組織となるNPO法人ウイメンズアイ Women's Eye の設立総会を行いました。(略称 WE (ウィ) とお呼びください。) 6月初旬には新団体として再スタートする予定です。



次号より「月刊」になります

ごあいさつ

週刊「東北に黒糖を送ろう!大作戦」から、二十四節季発行「すけさきた」に至るまで、復興支援かわらばんにおつきあい頂き、まことにありがとうございます。

震災から2年が経過する節目にあたり、当かわらばんの発行を「月刊」にさせていただくことになりました。今までに比べてのんびりしたペースになりますが、引続きよろしくお願ひ申し上げます。

今も東北の地では、生活再建のための支援が、さまざまな形で続けられています。地味で目立たない支援もあれば、希望を灯してくれるような華やかな活動もあります。

いずれも試行錯誤を繰り返しながら、あたらしい東北の姿を模索し続けています。

地元の人と外部からきた人とが、ともに地域の幸せを築いていこうとする取り組みは、まさにエコツーリズムの根底に流れる「地域づくり」の理念そのものであろうと感じています。

現地から届く情報の更新は、日々緩やかになっていきます。それは、「生活再建」がいかに地道で、時間のかかるものであるかということの現れです。私たちは、復興に取り組む皆さんの姿を、大きな困難を乗り越えようとする先達として、また同じ時代と同じ課題に挑む仲間として、これからも見失うことなく歩んでいきたいと考えています。

月一回のお目見得となりますが、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(なお、次号発行は4月11日を予定しております)



これからは毎月11日に発行します

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ホランティアに来たよ」という意味である

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め復興支援「すけさきた」しんぶん

we support RQ 災害教育センター